

さつま工芸会における商品開発事例

デザイン・工芸部 山田淳人

さつま工芸会

九州南端に属する鹿児島県は、南北に600キロという非常に広域な地形的特色を持ち地域資源や工芸素材が豊富です。鹿児島県の工芸品は、これらの素材と受け継がれてきた技術によって生まれ、その多くは、伝統的工芸品として新製品とともに生産されてきました。

さつま工芸会は、平成4年に鹿児島県工業技術センター、デザイン・工芸部が「ハイテク研究会」の一つとして、発足した研究会で、鹿児島県内の伝統的工芸品、伝統的素材を扱う企業8社で構成された「異業種の実験集団」です。

月一回の定例会の他、年数回の展示会を通して、展示会のテーマの設定からテーマに対する勉強会、試作品制作、検討会、DM作成、展示計画の立案などを総合的に研究しています。

さつま工芸会は、これからもお互いの持つ素材感や特徴を高め、「実験集団」の名にふさわしい「時代と共に進化し続ける工芸品」を合い言葉に日々研究し続けていきます。

◆ さつま工芸会参加企業

薩摩ガラス工芸(株)

(株)山王産業

日置南洲窯

(有)キューアート

橋口漆工房

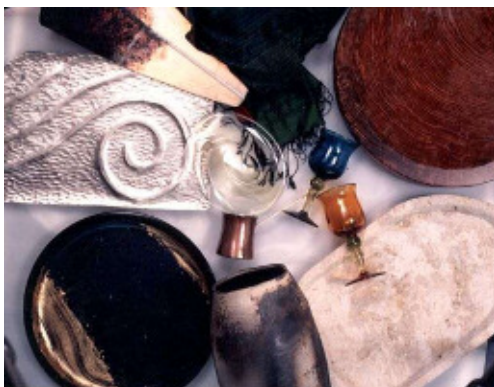
工房 花いろ

前迫石材(株)

さつま和紙



会議風景



開発商品



開発商品